

リケンテクノス株式会社
2015年3月期 第2四半期
(2014年度上期)
決算説明会

2014年11月26日

■決算概要

■事業の概況

■今後の事業戦略

決算概要

2014年度上期 業績サマリー

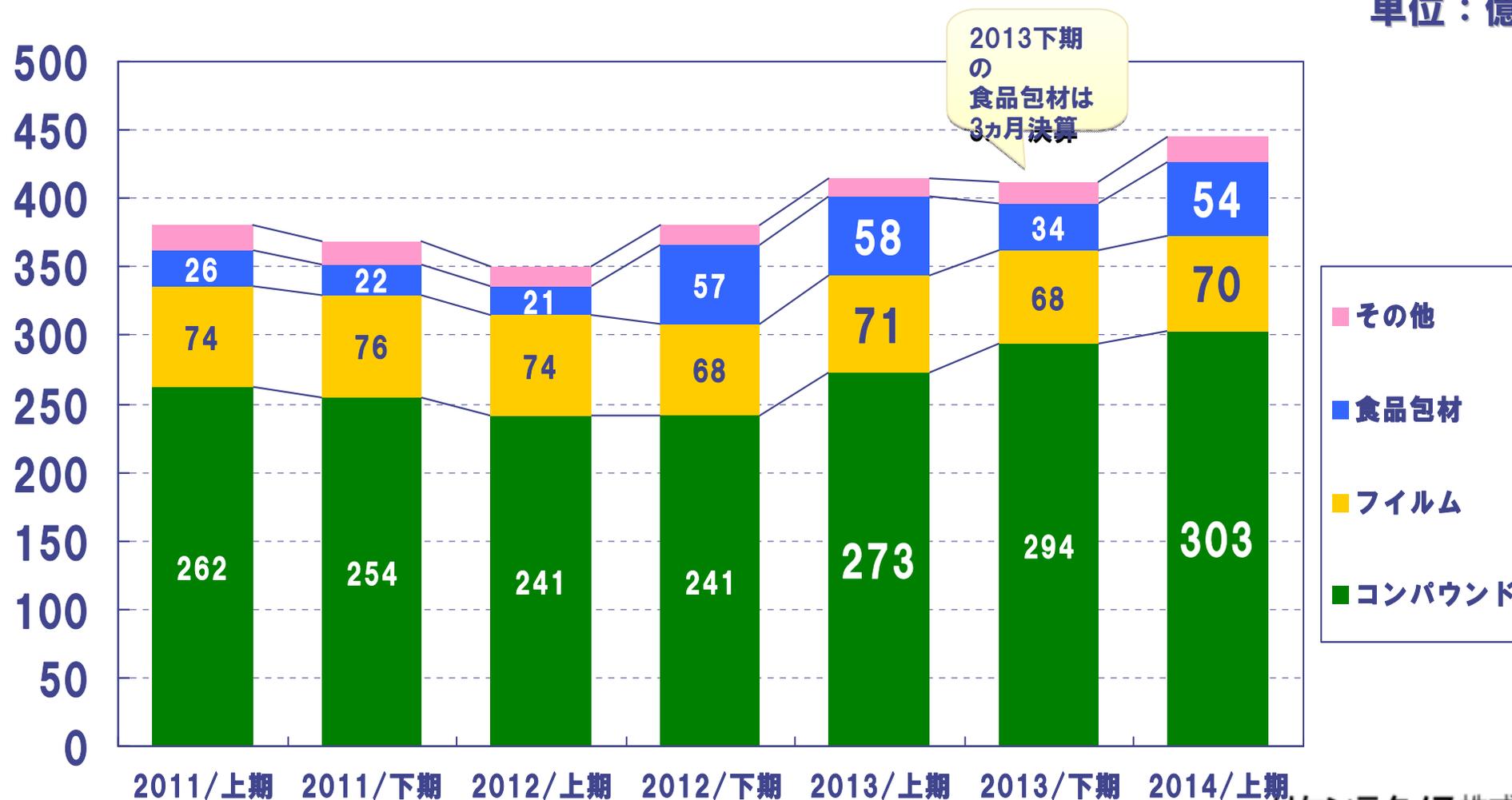
単位：百万円、円

科目	2014年度 上期	2013年度 上期	前期比	増減率	2014年度上期 業績予想	達成率
売上高	44,578	41,624	+2,954	+7.1%	45,000	99.1%
売上総利益	6,729	6,589	+140	+2.1%	—	—
営業利益	1,652	1,781	▲129	▲7.2%	1,900	86.9%
経常利益	1,873	1,956	▲83	▲4.2%	2,000	93.7%
当期純利益	894	1,235	▲341	▲27.6%	1,000	89.4%
1株当り利益	14.95	20.63	▲5.68	▲27.5%	16.71	89.5%

セグメント別売上高推移（半期毎）

2014年度上期 売上高 445億円
前年同期比 29億円増（7.1%増）

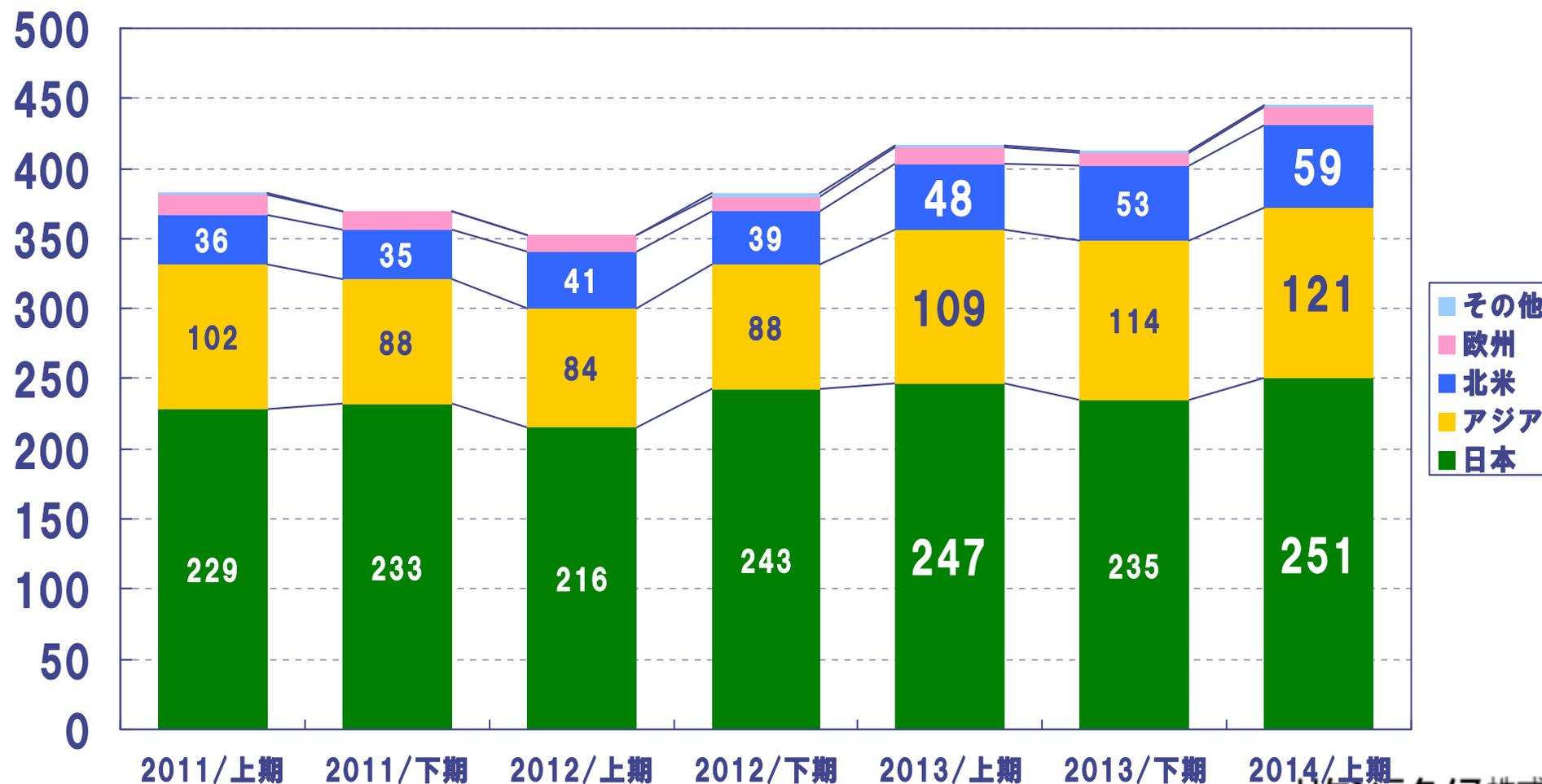
単位：億円



地域別売上高推移（半期毎）

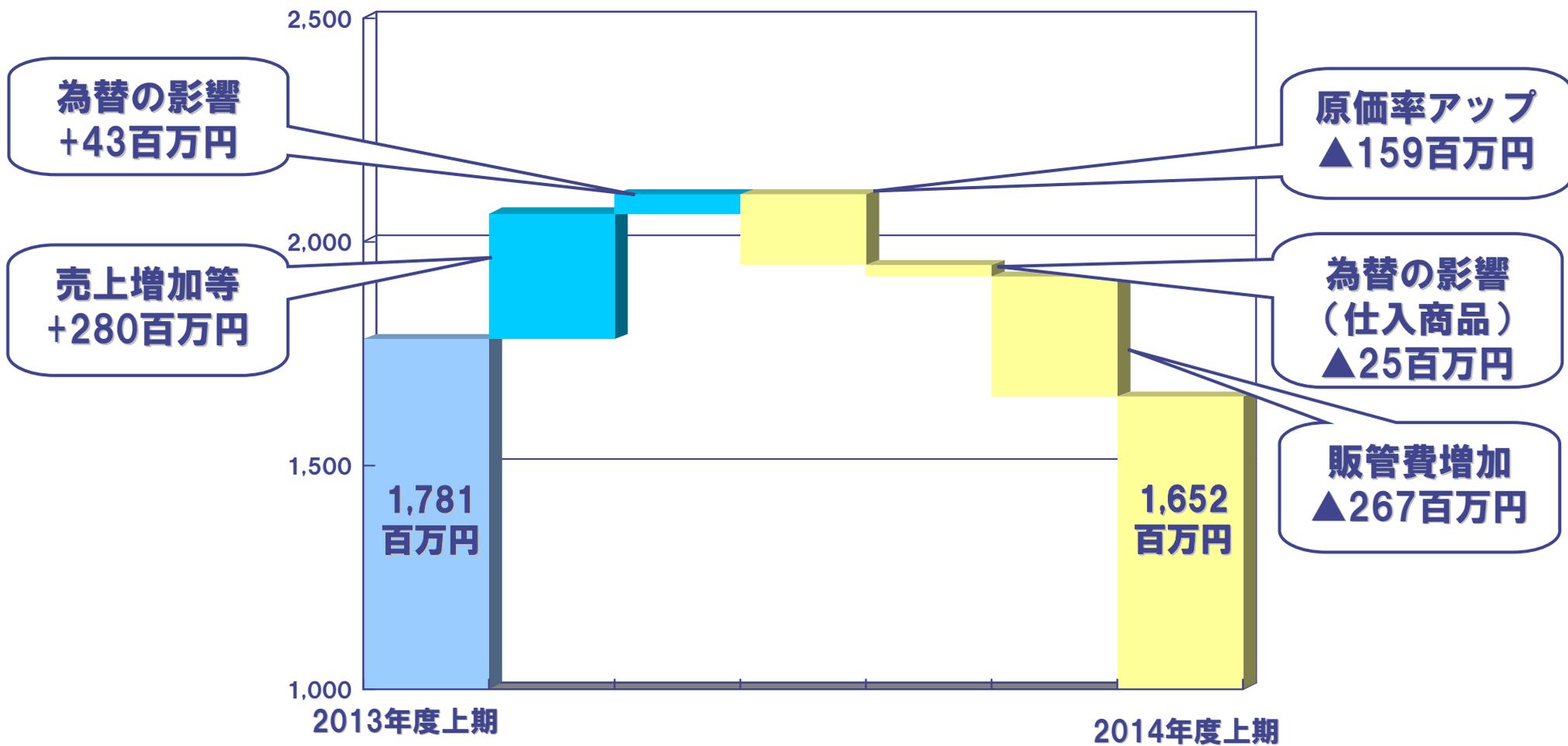
2014年度上期 売上高 445億円
前年同期比 29億円増（7.1%増）

単位：億円



営業利益の増減要因分析

営業利益 1,652百万円 前年同期比 129百万円減益



連結貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

資産合計

78,516百万円

前期末比 1,307百万円増

流動資産 46,374百万円

固定資産 32,142百万円

負債合計

37,117 百万円

前期末比 866百万円増

純資産合計

41,398 百万円

前期末比 441百万円増

当期

前年
同期比

営業CF 1,808 ▲786

投資CF ▲1,385 782

財務CF ▲1,137 ▲2,704

増減額 ▲867 ▲3,286

期末残高 10,831 ▲159

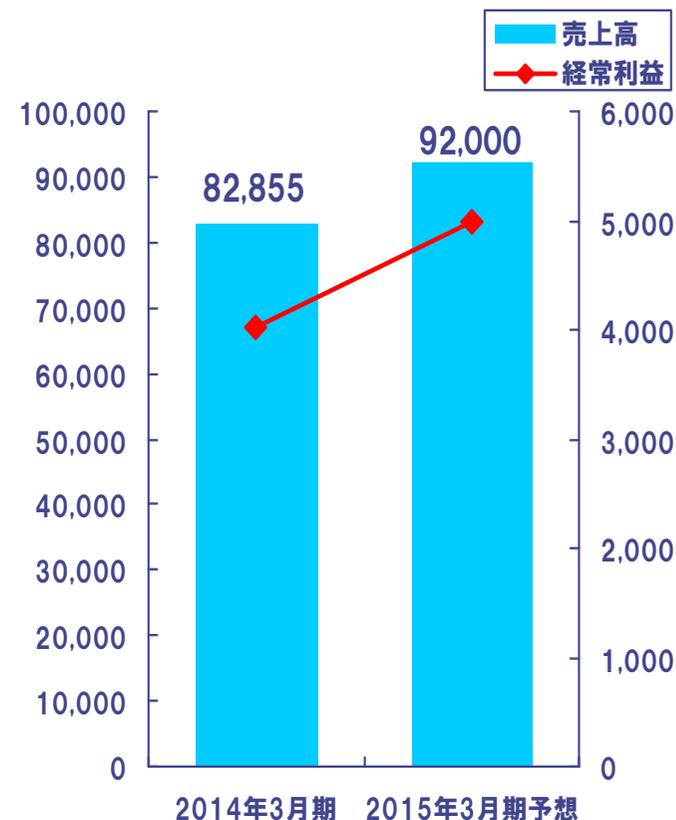
通期計画

(単位：百万円、円)

科目	2015年3月期 業績予想	2014年3月期 実績	伸び率
売上高	92,000	82,855	+11.0%
営業利益	5,000	3,732	+33.9%
経常利益	5,000	4,016	+24.5%
当期純利益	2,500	1,925	+29.9%
1株当たり利益	41.77	32.17	+29.9%

【業績予想のポイント】

各セグメントの状況を精査した結果、フィルムと食品包材は期初予想よりもセグメント利益はダウンすると見込まれるが、コンパウンドは海外が引き続き好調なことに加え、国内は原材料価格上昇分の製品への価格転嫁が進み、利益面では上期よりも改善するため、トータルでの予想は変更せず。



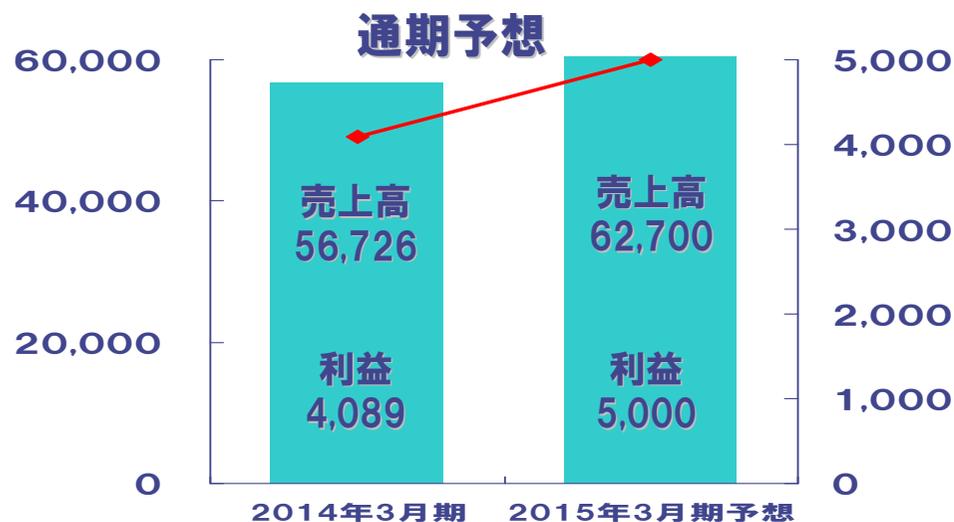
事業の概況

セグメント別動向① コンパウンド事業



3,008百万円増収 **21百万円増益**
 前期比11.0%増 前期比1.1%増

国内は建材は低迷したが、自動車・電材は拡販効果で堅調。原材料価格上昇分の製品転嫁が遅れ収益面では苦戦。海外は電材・自動車を中心に増収増益が続く。特に米国は好調。



5,974百万円増収 **911百万円増益**
 前期比10.5%増 前期比22.3%増

国内は電材は好調で建材・自動車の回復が鍵。原材料価格上昇分の製品転嫁は進み収益面では増益を見込む。海外は景気回復の米国の好調さに加え、中国、インドネシアも増収増益。

セグメント別動向② フィルム事業

上期実績

単位：百万円



113百万円減収 145百万円減益
前期比1.6%減

国内の建装材は非住宅分野が好調に推移、電材も車両用を中心に好調で収益拡大。輸出は米国、アジアが好調。光学分野は新規設備導入も売上に寄与せず。
(ガラス代替フィルム関連費用 350百万円)

通期予想



92百万円増収 34百万円改善
前期比0.7%増

建装材は非住宅分野が引き続き好調で収益拡大を期待。電材も車両用を中心に堅調に推移。新規事業の費用負担大きく、通期では赤字の予想。
(ガラス代替フィルム関連費用見込 850百万円)

セグメント別動向③ 食品包材事業

上期実績

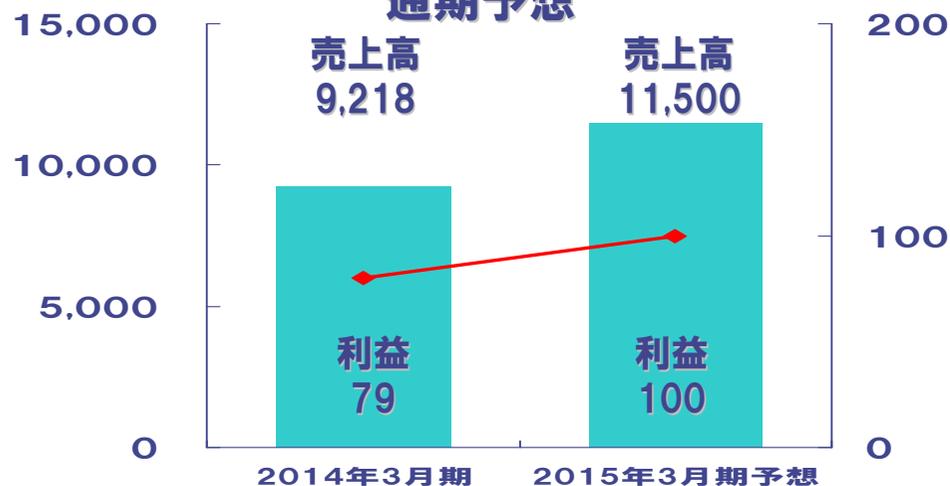
単位：百万円



390百万円減収 48百万円減益
前期比6.7%減

消費者の日用品に対する低価格指向が強まり、価格改定が難航。消費税引き上げによる反動等で売上も減少し厳しい状況が続く。

通期予想



2,282百万円増収 21百万円増益
前期比24.8%増 前期比26.6%増

前期は決算期変更があり、売上は大幅増加。収益面では、生産効率化による経費削減に加え、製品価格改定が進み増益の見込み。

今後の事業戦略

- 計数目標（初年度実績と最終目標）
- 中間レビュー
- マーケットインの取組み
- 設備投資等の状況

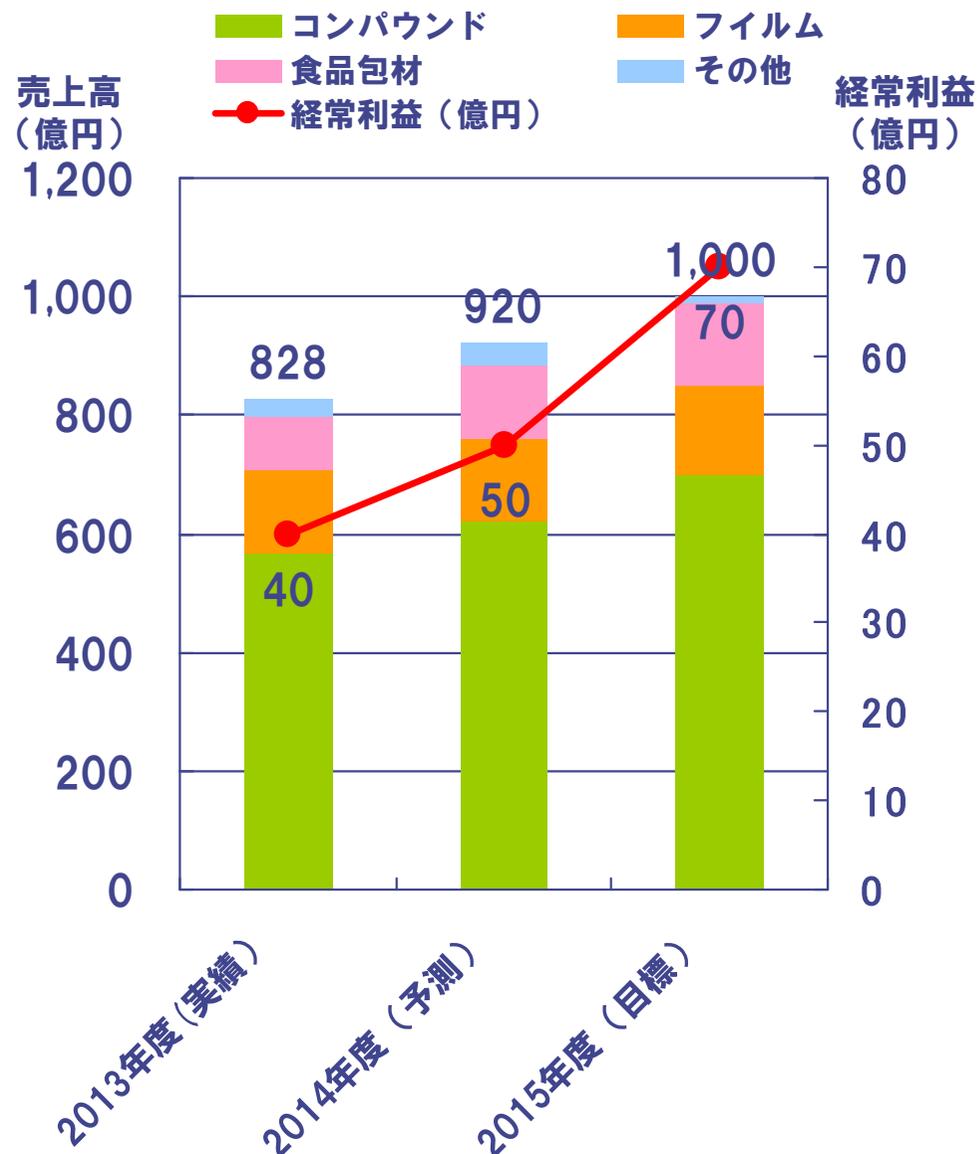


Dimensional Change

次元を変えた取り組みを行う

グローバル、更なるスピードアップ

(連結ベース)	2015年度 (最終年度)
売上高	1,000億円
営業利益	70億円
経常利益	70億円
当期純利益	40億円



2013年4月にスタート。経過状況のレビュー。

コンパウンド事業の更なるグローバル展開

フィルム事業の抜本的な立て直し

最適な営業推進体制の構築

コンパウンド事業の更なるグローバル展開

2013

2014

2015

全域

グローバル営業体制強化シンガポールへ統括会社設立、タイ・ベトナムに販売会社設立

海外拠点との協業による（戦略市場）拡販、グローバルネットワーク構築

アジア

タイ エラストマー工場稼動

タイ エラストマー
増設検討

自動車
電線
情報電子
医療

インドネシア 医療用塩ビコンパウンド工場稼動、販売の強化

インドネシア一般塩ビ増設ライン稼動

当社グループ全体で
海外売上高比率
50%以上が目標

中国 増設ライン稼動

ベトナム コンパウンド生産工場設立

北米

米国 エラストマー増設ライン稼動

自動車
建材

米国 塩ビ増設検討

欧州
その他

未開拓地域（中南米、EU他）の市場調査

重点市場に強い企業とのアライアンス等の検討

ベトナム社会主義共和国の新会社について

- 商号: RIKEN VIETNAM CO.,LTD. (仮称)
- 所在地: ベトナム社会主義共和国
ビンズオン省
- 設立年月日: 2014年12月設立予定
- 主な事業内容: コンパウンドの製造・販売
- 資本金: 10百万USドル
- リケンテクノス株式会社100%出資
- 事業開始: 2016年6月予定



アジアでの販売会社設立

新規設立2013~2014年

2011年6月 中国
理元(上海)貿易有限公司

2013年7月設立 韓国
リケンテクノスインターナショナル코리아コーポレーション

2007年10月設立 日本
リケンテクノスインターナショナル株式会社

2014年8月設立 タイ
リケンテクノスインターナショナルタイランドカンパニーリミテッド

2014年4月設立 シンガポール
リケンテクノスインターナショナルPTE. LTD.
※統括会社

2014年11月設立 ベトナム
リケンテクノスインターナショナルベトナムカンパニーリミテッド

フィルム事業の抜本的な立て直し

前半の実績

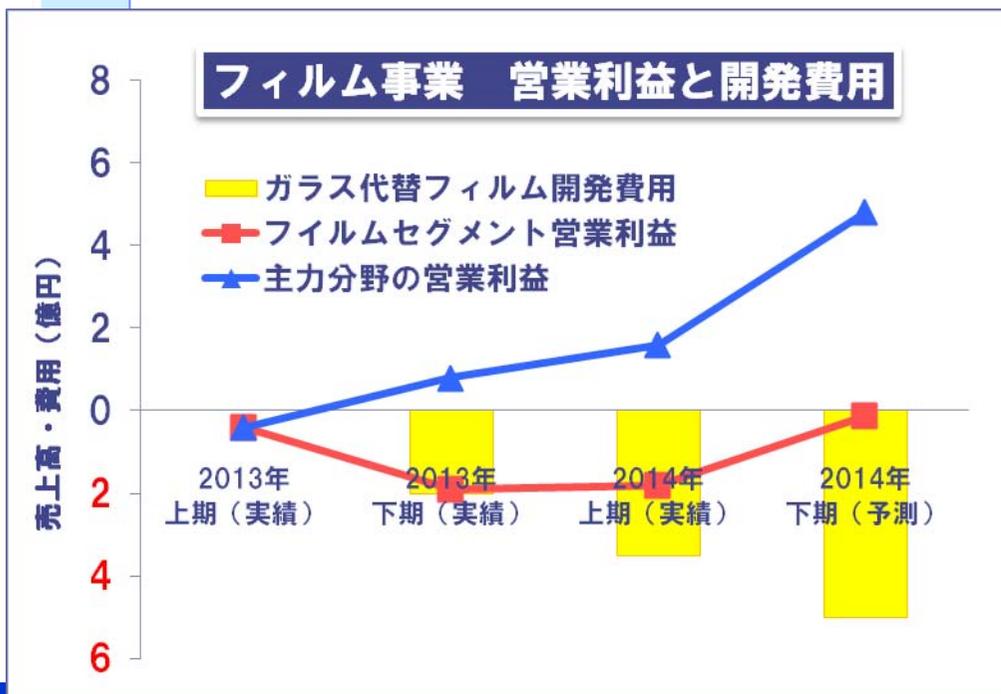
(2013年4月～2014年9月)

- ◆主力事業での安定黒字化
- ◆新製品への開発注力、上市への準備

後半の課題

(2014年10月～2016年3月)

- ◆主力事業での黒字拡大
 - ⇒ 建材分野でのリフォーム・非住宅市場需要の取り込み
 - ⇒ 徹底したコストダウン実施
 - ⇒ 様々な新製品の販売
- ◆光学フィルムのディスプレイ市場への新製品の上市



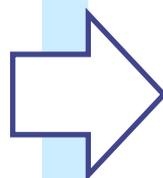
最適な営業推進体制の構築

製品別組織から市場別組織へ改組。2014年4月よりスタート。

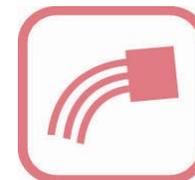
コンパウンド事業部

フィルム事業部

製品事業部（食品包材）



自動車
市場



電材
市場



医療
ヘルスケア市場



建材・建装材
市場

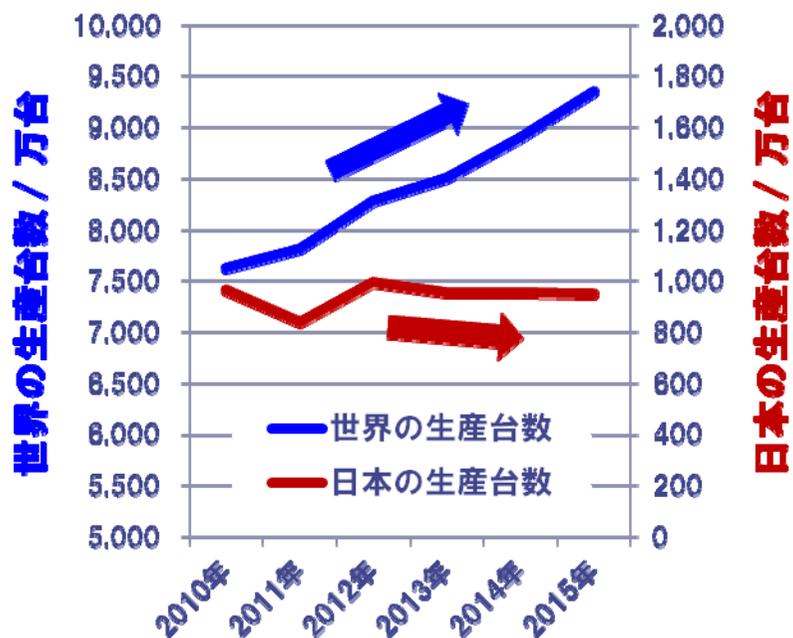


情報電子
市場



食品包材
市場

市場動向データ



自動車市場での売上目標

2015年売上目標：280億円

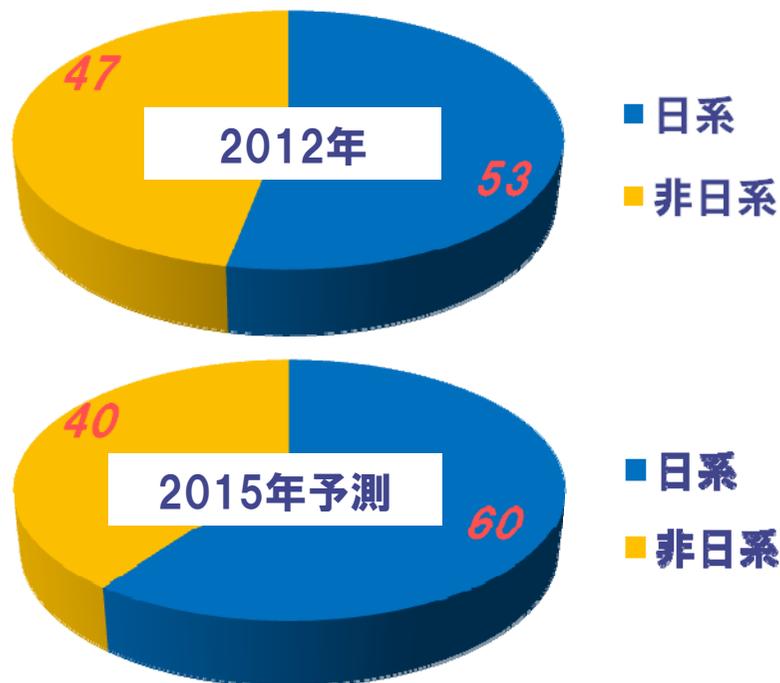
⇒ 2012年売上比：+100億円



市場ニーズ(軽量化、PVC回帰)を的確に捉え、各分野の販売戦略にて、売上の拡大を進める。

ワイヤーハーネス (W/H) の拡販

ワイヤーハーネス市場シェア



生産台数増加の中、
日系メーカーの販売量が上伸

戦略

- ・カーメーカーが要求する、『品質』と『軽量化』のニーズに対応した技術開発力により、他社の追随を許さない製品供給を継続

⇒日系W/Hメーカーのシェア拡大に積極的に貢献

- ・海外拠点をさらに拡充

⇒最適、量的生産拠点の確保

売上目標

W/H材料メーカーのリーディングカンパニーへ

世界シェア: 30% ⇒ 40%

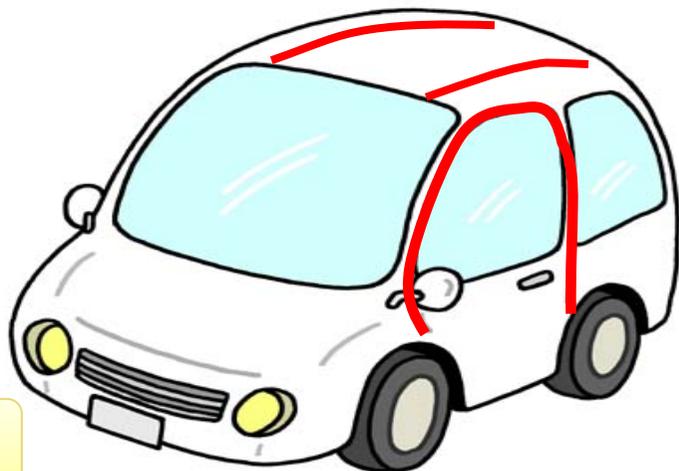
内外装部品（国内・海外）拡販

ターゲット

外装モール

ルーフモール（屋根溶接部）

ウェザーストリップ（窓外周保護）



ドア周辺

ベルトモール（ガラス昇降時の水切り）

グラスランチャンネル（ガラススライド部）

オープニングシール（本体側シール）

ドアグロメット（ハーネス通過部）

戦略

国内市場は縮小傾向（特に2014年は増税影響で計画にマイナス）だが、軽量化と環境負荷の低いエラストマーで、採用部材を拡大する（ゴム代替）。

海外では、今後も生産台数の拡大が継続するので、既存の内外装部品の採用拡大を進める。（PVC+エラストマー）

また、国内で採用されたゴム代替材料を海外に展開し、日本、北米、タイでのエラストマー販売数量を拡大する。

売上目標

世界シェア：9%⇒11%

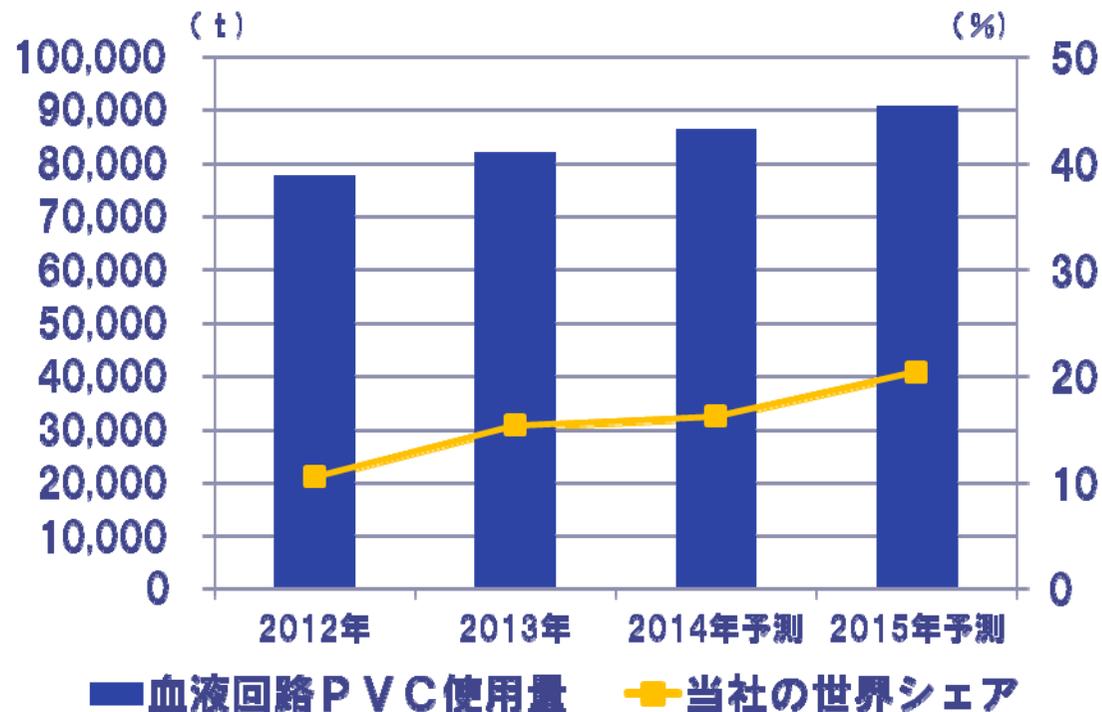
市場動向データ



拡大する血液回路市場

- 透析患者数増加
 - 先進国の長寿命化
 - 途上国の保険制度充実
- 2012年～2015年にかけて約**14%**市場拡大

塩ビ(PVC)使用量動向データ



※ 当社調べ

売上目標

拡大する血液回路市場へ積極的拡販

世界シェア10% ⇒ 20%

ターゲット



メインチューブ

ポンプチューブ

チャンバーチューブ

当社の強み

- ・各生産拠点からの高品質、同一品質の安定供給
- ・原材料のグローバル調達力

戦略

- ・日系メーカーとのパートナーシップ強化
- ・販売統括会社を活用した非日系メーカーへの拡販

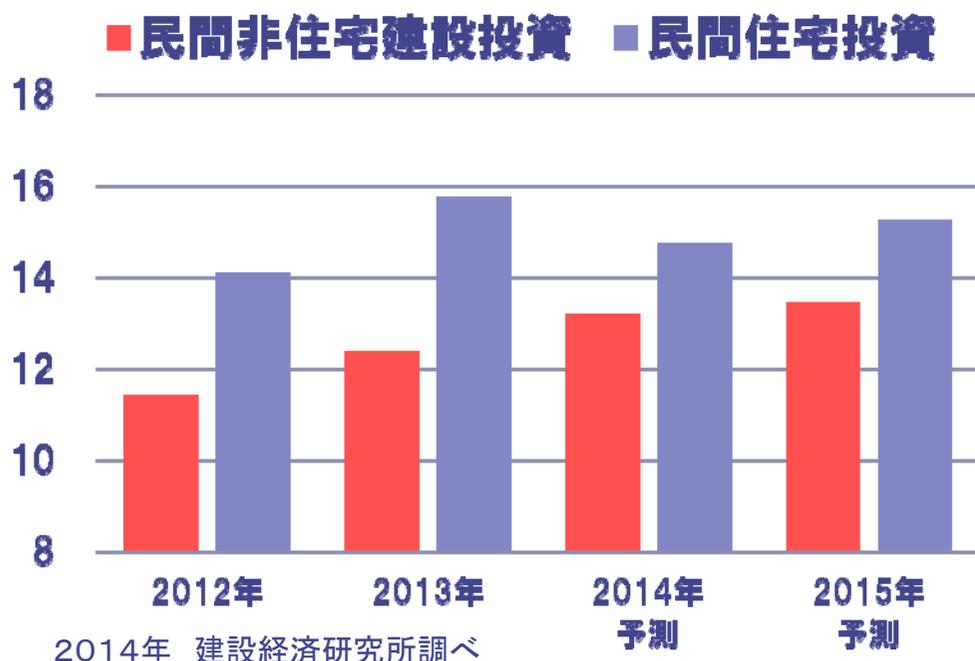
医療ヘルスケア市場での売上目標

2015年売上目標： **70**億円

⇒2012年売上比： +35億円

建材市場動向

住宅VS非住宅 投資金額推移（兆円）



2014年度見通しは、2013年度と比べ民間住宅投資が減少し、非住宅投資6.5%増加。

重点市場

リフォーム市場

非住宅市場

市場のニーズ

安全・省エネ・高性能・デザイン

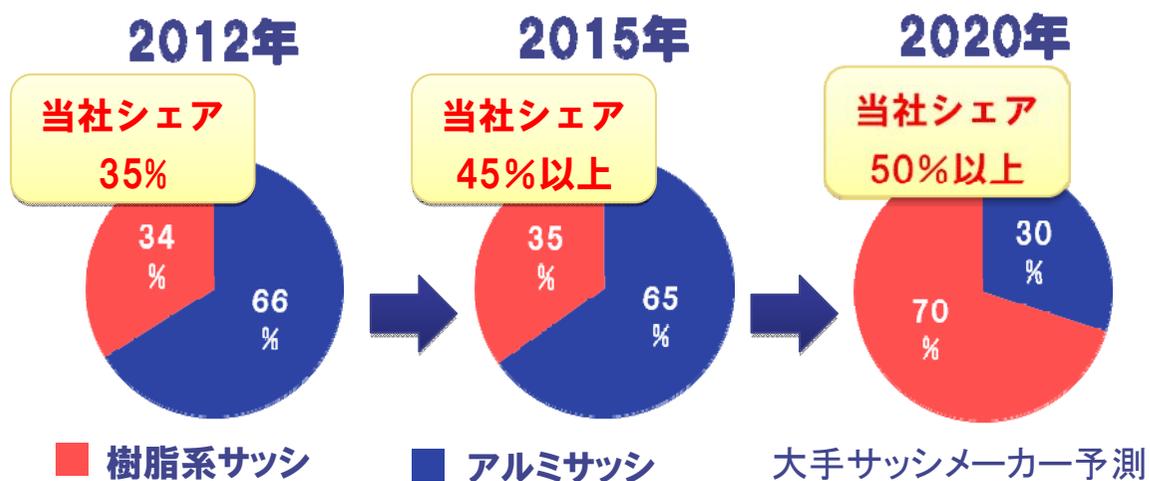
売上目標

2015年度売上目標
2012年度比 **7%UP**

リフォーム市場への拡販（樹脂系サッシ）

市場動向

2020年建築基準法改定により、省エネ基準UP
断熱効果の高い樹脂系サッシの注目高まる
大手サッシメーカーは7割まで樹脂化の計画



当社の強み

- バリエーション豊かな意匠性
- 配合技術によるリアルな木質感
- 断熱・気密性に優れる機能材

戦略

- 意匠開発力を活かして顧客ニーズに対応
- 機能材による課題解決で、シェア拡大
- グローバルネットワークを活かし、日系メーカーの海外生産拠点へ供給

樹脂系サッシ用途例



樹脂窓



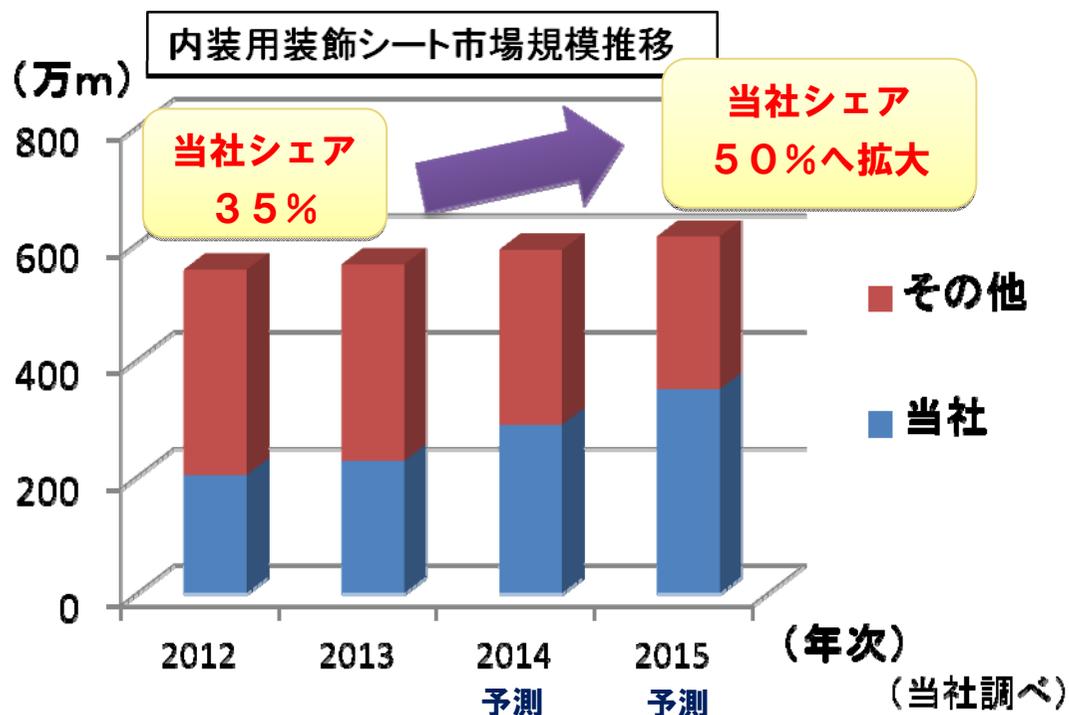
アルミと樹脂複合窓

高断熱効果

非住宅市場への拡販（内装用装飾シート）

市場動向

非住宅投資の増加による市場拡大、リノベーション需要の増加に伴い、内装用装飾シート需要は拡大



※内装用装飾シート：塩ビ製フィルムで、表面に木目などのデザインが施され、裏面に粘着剤が塗布されたシート。主に店舗、ホテル、オフィスなどで使用される。

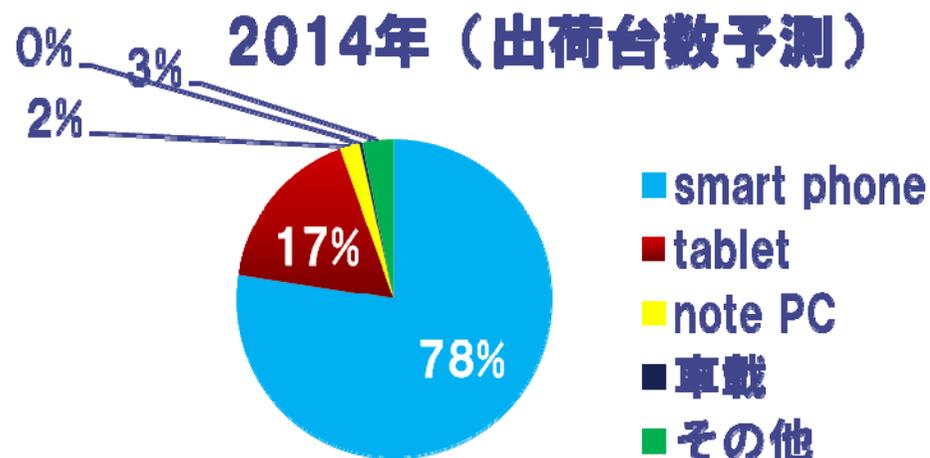
当社の強み

- ◆内装用装飾シートで20年の実績
- ◆顧客からの高い信頼性
- ◆高い施工性
- ◆課題解決、要求具現化で、顧客期待を上回る技術

戦略

- 顧客ニーズの多様化へ対応し
市場シェア拡大
- ・高性能商品の展開
 - ・斬新でリアルなデザイン表現

タッチパネル用途のガラス市場動向



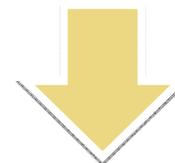
用途	ガラス面積	比率	ガラス売上
smart phone	800万㎡	45%	333億円
tablet	450万㎡	25%	185億円
note PC	200万㎡	11%	78億円
車載	30万㎡	2%	17億円
その他	300万㎡	17%	125億円
計	1,780万㎡	100%	約730億円

※2014年(市場予測)

当社の強み

ガラス代替フィルム Repty®
DCフィルムの特徴（vsガラス）

- ・軽い
- ・割れない
- ・曲げられる
- ・加工性の大幅向上



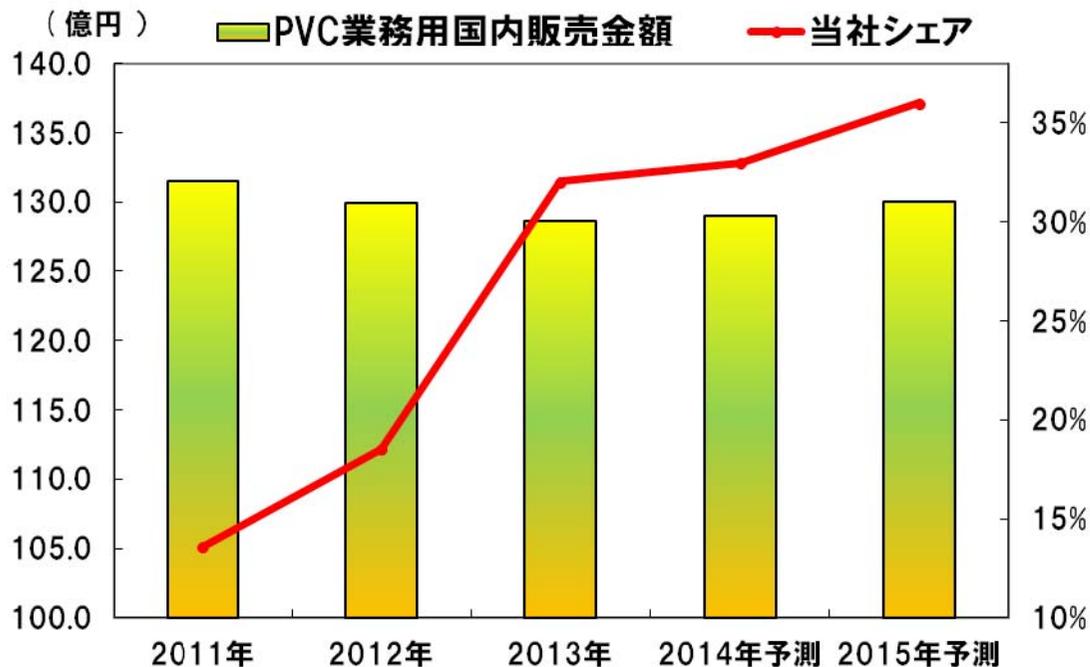
タッチパネル市場への
早期参入

業務用ラップの国内市場動向

- ・業務用塩ビラップ市場 約130億円/年
 - ・業務用非塩ビラップ市場 約 40億円/年
- 塩ビ製品の業界数量は1996年を境に減少傾向だが「グリーン購入ネットワークガイドライン改定」により塩ビ回帰の流れがある

当社の強み

- ・2012年「業界初」の再編により三井化学ファブロと統合 トップシェアとなり市場の情勢が把握しやすくなった
- ・有力顧客(商流)を多数確保



戦略

2015年度は「シェア**36%**」に、さらに「シェア**40%**」の早期実現を目指す

- ・販売チャネルを活かして末端顧客へ包装適性に優れた塩ビ化提案を行い、非塩ビの市場を取り込む
- ・生産・物流拠点の集約と統合

単位：億円

年度	主な設備投資	総額	減価償却費	研究開発費
2013年度 (実績)	国内 エラストマー増設 インドネシア 医療用コンパウンド新設	37	28	12
2014年度 (計画)	国内 光学用フィルム増設 米国 エラストマー増設 インドネシア コンパウンド増設	44	33	13
2015年度 (計画)	中国 コンパウンド工場増設 ベトナム コンパウンド工場新設 米国 塩ビコンパウンド工場増設	64	35	14

※メンテナンスを含む。

株主還元

配当金

安定配当

(円、%)

	中間	期末	通期	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
2011年3月期	4.00	4.00	8.00	24.0	1.61
2012年3月期	4.00	5.00	9.00	27.8	1.73
2013年3月期	4.00	5.00	9.00	40.2	1.64
2014年3月期	4.00	5.00	9.00	28.0	1.54
2015年3月期 (予想)	4.00	5.00	9.00	21.5	1.54

※2015年3月期（予想）における配当性向及び純資産配当率は、9月末現在で把握可能な数値にて試算しております。

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経理部 前田